

# 木々の会 2024年度活動計画

## 基本方針

### 1. 〈地活〉のいまを見つめ今後を皆で大切に考えよう！

地域活動支援センター〈地活〉は、障がいをもつ人たちの日中活動の場・居場所であると同時に、様々な人の繋がりと活動を生み出す地域のベース基地でもあり続けてきました。

40年余りに開所した「むくどりの家」に関わる人々が中心になり、新たな場「木楽舎」を生み出すために木々の会が誕生したのが1994年。今年で30年になりました。当事者と取り巻く社会の状況には大きな変化の波が押し寄せています。このところ目立つのは利用者の通所日数の減少で、その結果、日常の活動プログラムはもとより、何でも皆で話し合って決めるあり方にも影響が及んでいます。

通所日数が減っている理由としては、長期利用メンバーの高年齢化の他、週1～2日など少日数の利用者の割合が増えたことが挙げられます。これはとりもなおさず、〈地活〉が多様な当事者のそれぞれの状況に合った利用を精いっぱい受けとめてきた事の現れです。しかし、現在の補助金制度のしくみではそれが運営の不安定化に直結してしまいます。

一方、新規の利用希望者も少なくなっています。通所先の選択肢が増えたプラスの反面として、営利企業の進出による支援の質の変化や情報の届け方にも注意を向ける必要があります。又、〈地活〉は精神科入院者の退院の大事な足場になってきたことを考えると、退院促進がいまどうなっているのかの動向も気になるどころです。

メンバーの人たちの生活の様子と気持ちを知り、より魅力ある場を共につくっていく。新たな利用者を募る。そうした日常の積み重ねの一方、広くアンテナを張りつつ課題を掘下げ、現状打開に向かっていきましょう。

### 2. 「パートナー」の再発見から新たなビジョンへ！

木々の会の一番の特長は、メンバーでもない職員でもない第三の存在＝パートナーがいつもともに居て色々な活動を同一に近い条件で行なっていることではないでしょうか。〈地活〉に風を運び、繋がりを生み、地域に開かれた場であるためにもなくてはならないキーとなる存在です。

社会制度の‘きほんのき’とされてきた「家族」が以前のような役割を果たすことは、もはや不可能です。一方、福祉サービスのしくみが作られてきたものの、その限界もまた見えています。人間どうしの関係はいっそう希薄になり孤立化する中で暮らしはどうなっていくのか。これからどのように「生・老・病・死」と向き合っていけばよいのでしょうか？

私たちは障がいの有無を超え、同じ地域社会に暮らす者として支え合うことの中に〈生きる手ごたえ〉を見出そうとしてきました。その中に新たな社会を開く大事なカギが隠れているのではないのでしょうか？ 転換期にある木々の会の今後のビジョンを描くためにも、今の時代にふさわしいパートナーとの協同を色々な場で話し合って創っていきましょう。

### 3. 以下のことにも力を入れて取り組みます！

- ① 新グループホームを軌道に乗せること
- ② 組織・運営態勢を引き続き整備すること
- ③ 『木々の会30周年』行事を楽しく有意義に行なうこと